

2025（令和7）年度 マリヤこども園学校評価実施要項

〔目的〕

- 学校（こども園）としての組織的・継続的な改善を図ること
- 学校（こども園）・家庭・地域の連携協力による園づくりを進めること
- 一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること

〔評価〕

- ①自己評価は、当こども園の多職種（保育教諭、栄養士、看護師、一時預かり専任者等）によって行い、設定した目標や計画に照らし、その目標の達成状況や取り組みの状況について評価を行う
- ②学校評価関係者評価は、マリヤこども園に在籍する保護者代表と地域住民及び姉妹法人の園長他学校関係者が自己評価の結果に基づき、評価と助言を行う
- ③5年ごとに外部の専門家を中心とした第三者評価を実施し、専門的視点からの評価を受ける

〔評価時期〕

教職員による自己評価	年1回	11月に通知し、1月に実施
評価委員による評価	年1回	11月に通知し、1月に実施
第三者評価	5年ごとに1回	2012年/2017年/2022年/

〔公表〕

学校評価の結果について、保護者及び地域住民にHPを通じて公表する。尚、公表時期については、実施した翌月とする。

〔評価委員とその任期〕

自己評価者

太田礼子園長、千葉佳奈子主幹保育教諭、庄子未恵主幹保育教諭、西村奈美副主幹保育教諭、大倉真希副主幹保育教諭、山本あづさ保育教諭、藤原瞳保育教諭、大橋怜奈保育教諭、周郷英里菜保育教諭、岩崎知美事務員、崎田恵美保育教諭（一時預かり専任）

評価委員

（1）マリヤこども園に通園する園児の保護者	保護者代表	高山 裕美
	保護者代表	長山 優
（2）地域関係者	八千代市長寿会連合会役員	山野 洋司
	八千代市社会福祉協議会ほっこり代表	拝詞 妙子
（3）当園以外の教職員	八千代市立阿蘇米本学園教諭	小柳 将大
	学校法人堀口学園 昭苑こども園園長	堀口 義也
（4）その他、園が必要と認めたもの		

評価委員の任期は委嘱の日から当該年度末とし、再任を妨げない。

2025年度の教育活動等に対する学校評価書

1. 保育の方針と目標

全ての人は例外なしに、「神によって創造された存在である」という理解に立って、神を愛し、自然を愛し、人間を尊ぶことが人間性の基礎であることの視点に立ち、以下のように基本方針を定め、これを実践し、具体化するために、乳幼児一人ひとりの主体性（自立性・自立心・自律性）を重んじ、社会性の芽生え（協調性・連帯性・責任意識）を育て、個性が伸びる創造性（興味・集中力・探求心）のある子どもを育成することを目標とする。

<基本方針>

1. 心の清い正直な人間（良心教育）
2. 心の豊かな明るい人間（情操教育）
3. 体の丈夫な強い人間（健康教育）
4. 動作の機敏な人間（安全教育）

2. 2025年度の重点課題

1. 保育と療育の連携、陣のインクルーシブ保育の実現に向けて
2. 働き甲斐のある職場づくりの促進
3. 地域に根差した園としての強みの強化

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

（※評価はA(80%) B (70%) C (60%) D（やっではみたが成果としては50%） E（全く手つかず）で表している

〔目的〕

- 学校（こども園）として組織的・継続的な改善を図ること
- 学校（こども園）・家庭・地域の連携協力による園作りを進めること
- 一定水準教育の質を保証し、その向上を図ること

〔評価〕

- ① 自己評価は、当こども園の他職種によって（保育教諭、栄養士、看護師、事務職員、一時預かり専任者等）行い、設定した目標や計画に照らし、その目標の達成状況や取り組みの状況について評価を行う。
- ② 学校評価関係者評価はマリヤこども園に在籍する園児の保護者代表と姉妹園の園長他、地域住民等が自己評価の結果に基づき、評価と助言を行う
評価委員（八千代市長寿会連合会：山野洋司、社会福祉協議会ほっこり代表：拝詞妙子、
保護者会会長：山内海里、保護者会副会長：沼野奈緒、阿蘇米本学園教諭：小柳将大、姉妹法人昭苑こども園園長：堀口義也）

※ 2025年12月27日内部自己評価実施、2025年1月31日学校関係者評価実施

評価項目	具体的な取り組み	自己評価					学校関係者評価委員会					
		評価					評価					
		A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	
法人理念の実践	法人理念に基づいた保育実践の強化 ①折に触れて理念の確認をしたり、各々の保育実践が理念と結びついているのかの確認できる機会を設ける	1	10		1		<ul style="list-style-type: none"> 会議時に織り交せて話を聞く機会がある 理事長先生の話聞く機会が必ず年に2回あること、園長から全体に向けての話が会議時に持たれている 行事ごとに法人理念を問う機会になっていると思う 	3	3			<ul style="list-style-type: none"> 法人の理念に基づき、インクルーシブな保育が推進されていると思います。
	②法人理念に基づき、乳幼児一人ひとりの主体性を尊重した保育実践を行う	6	6				<ul style="list-style-type: none"> キリスト教保育の読み合わせ他、子どもに寄り添うとはどういうことか、主体性とは、という話し合いを深めながら自分たちの保育実践を振り返り確認するように努めた。 以前よりも一人ひとりに向き合おうとする意識が向上している 	4	2			<ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長などよく見てくれていて日々のやり取りで主体性を尊重してくれているのが伝わります。 主体性は関係性の深まりの中で育ち、発揮されていくので、遊びの深まり、同僚性の構築を大切にすると良いと思います。
	インクルーシブ保育の推進 ①エール職員との連携を密にし、当該児の支援をしていく						<ul style="list-style-type: none"> 時間がなかなか取れない中ではあるが、会議や話し合う時間を作っている 情報共有をして援助や関りを計画することができた。 行事のみならず日々の連携をもっとしていきたい。 昨年度より連携が深まってきていることを実感している 連携が深まってきて、目指す方向性が同じ方向を向いているものの、まだまだ具体的なフォローの連携が不足している まだ3年目の事業なので、保育療育両者相互理解の必要性を感じる 	3	3			<ul style="list-style-type: none"> 面談もエール職員と担任と一緒に入ってくださることで、共通の認識が持てていますし、何かあっても必ずお互いの先生が知っているので連携が密なんだと感じます。 エール職員の先生方の専門性が非常に高く支援体制が充実している。今後一層の担任との密な連携がなされることに期待します。 マリヤこども園側では、支援が必要な子だけでなく、周りの子ども達とその子の関係性に着目して集団生活における援助を進めると良いかと思っています。 次年度より利用予定のオリーブに見学に行った際、エールと沢山情報共有している様子と、エールが頼りにされていることを感じました。
	②集団の場での居心地の良い環境作りの協働検討の実施						<ul style="list-style-type: none"> 個々に合わせた活動参加の仕方を試行錯誤した。 エール職員のクラスでの支援時の関わり方のすり合わせの必要性を感じている クラスというより園全体で子どもを育てという風土が大大分できてきていることを実感 	2	4			<ul style="list-style-type: none"> エールも含め園全体がワンチームになって保育療育、発達支援が進められていると思います。 時間の取り方等も工夫してもらって支援してもらって感謝です。 家では気付くことが難しい課題だと思うので、大変ありがたいと思います。
保育の質の向上	発達段階に応じた保育環境の整備と振り返り(PDCA)の定着 ①子どもの発達段階、興味関心に合わせて、主体性を尊重できる環境作りに努める	1	10	1			<ul style="list-style-type: none"> まだまだできることはあると思う 子どもの観察力（アセスメント力）が増すことで、玩具づくりに結びついたり、コーナーづくりに結びつけることができるようになってきている 	2	4			<ul style="list-style-type: none"> 主体性が発揮され、遊びが自然に深まっていくには？の視点を大切にしてください。 ブロックや手先を使う玩具や、全身を使うボードなど子ども達の発達に役立つものが多く、いつも楽しそうにみんな遊んでいます。
	②保育の質向上に向けて、担任そろって振り返る時間の確保に努め、日常保育のPDCAを定着化させる						<ul style="list-style-type: none"> クラスにより差があるので、臨機応変にクラスを超えて振り返る時を持ってもらいたいのではないかと思う 					<ul style="list-style-type: none"> 保育の振り返りから、次への工夫を皆で話し合われていて素晴らしいです。 先生方自身の表も向上するように、時間の確保は勿論、ブロック（2学年）での振り返りなどの実施はどうか。 クラスの違う先生方も「今日は～でしたよ」と声をかけてくださり、園全体でよく見てくれているということを感じます。 クラスでカラーが毎年違いなので、先生方から上がっている改善点についてはとても良いと思います。姉妹園の同じ学年との比較等があっても良いかもしれませんね。
	③行事のアンケートにより親の子どもへの成長への気づきを共有したり、学期ごとの保護者面談を通じて子どもの育ちを喜び合う	4	8				<ul style="list-style-type: none"> アンケートをきっかけに保護者との話も広がる アンケート結果の職員共有もできている 	3	3			<ul style="list-style-type: none"> 保護者、職員、地域の皆様で子ども達の成長を共に喜び合っていると思います。 私たちが各行事では沢山の感動をいただき嬉しいですが、アンケートで先生方がたくさん感動してくださり、嬉しいです。
	④日々のコミュニケーション及び面談により、家庭内での育児の悩みなどを引き出し、子育ての伴走者として子どもを中心とした家族の支援、子育て支援をしていく	8	4				<ul style="list-style-type: none"> 面談の時間設定が昨年度より少し長くなったため充実している クラスにより差があるように感じる 学期ごとの面談ではとてもいい面談ができている 乳児組はお部屋まで保護者の送迎可能なこともあり、家庭とのやり取りを大切に、育児支援をしようという意識が高まっている。幼児組での意識向上を強めたい 	6				<ul style="list-style-type: none"> 保護者と園が二人三脚で子どもの育ちを支えている姿が感じられます。 小さな悩みでもお忙しい中お話を聞いてくださり、困っているといつも手を差し伸べてくれていてありがたいです。 面談時はもちろんのこと、担任や担任以外の職員の先生方から子どもの様子を共有していただき、保護者としても安心している。
	⑤親子で遊ぼう会（保育参加）により、園での様子や子どもの成長をより身近に感じていただけるようにする。	8	4				<ul style="list-style-type: none"> 近年の保護者の傾向なのか、横のつながりの希薄さを感じるので、きっかけ作りを強めていきたい 企画の意図も職員皆意識して計画実行することにより、保護者への関わり方も意識した関わり方ができている 	5	1			<ul style="list-style-type: none"> 親子の触れ合いプラス親同士の交流を意図した企画を取り入れると良いかと思っています。 乳児組で懇談会があったことで、悩みを相談できたり、他の方の子育てで状況を知る機会があっよかった。

